

〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
発行人 山崎 哲
編集長 仲井 真裕
印刷 大進ラベル印刷(株) 03-3787-3621



令和5年
1月号

大悲に生きる人とあう
願いに生きる人となる



本年もよろしくお願いたします

明治神宮 渋谷区

新年の挨拶

明けましておめでとうございます。

新たな年をお迎えできましたこと、心よりお慶び申し上げます。

しかしながら、ロシア・ウクライナの戦争は続いております。

昨年の一字は「戦」でありました。仲良く共に歩むことを願いながら、争いが止められない人間。この矛盾の身を仏法に訪ねて行きたいと思えます。

三月十一日は第三回「帰命法会」を勤修致します。そして本山佛光寺では「慶讃法会」が勤まり、西徳寺でも五月二十七日に団体参拝を予定しております。その他、各聞法会もごございますので、是非、ご参詣ご参加ください。

任職 山崎 哲



1月の山門の言葉

ご恩は 返すものではなく 応えるもの



恩返し。昔話などでよく耳にするけども、返したら
終わりなのだろうか？

借りを返すのは世の常識であるが、そもそも「ご恩は
返せるものなのだろうか？

返しきれものだろうか？

例えば、生んでくれたご恩、育ててくれたご恩…。

逆さまになってもその方に返しきれものではない。

否、そもそも「返しきれないものを頂戴した」と感じる

ことがご恩を感じるということではないだろうか。

だからこそ、ご恩は返すものではなく、応えていく

ものだと申し上げたいのである。頂いたご恩が自分自

身と切り離すことが出来ない血肉になり、それをもち

て一日一日を歩んでいくことが、応えてゆくというこ

とではないだろうか。

また、その方が亡くなられた後に、気付かされるご

恩も、時としてある。そんなとき、「気が付くのが遅

かった」と悔やむ。しかしご恩は、返すのではなく応え

るものであるならば、その悔やむ心のもとに、応えて

ゆく一歩を今日から歩み出すことができる。

亡くなられたからこそ響き、失ったからこそ気付か

されることのあるのが人間である。そんな私たちに応

える道が拓かれている。つまり、ご恩の気付きに手遅

れはないのであろう。

(山崎 哲記)

ランドマーク 明治神宮

明治天皇と昭憲皇太后が祀られて
いる明治神宮は、明治天皇崩御後の
1920年(大正9年)11月1日に創建さ
れました。

江戸時代初めには肥後藩藩主 加藤
家の屋敷があり、その後は彦根藩藩
主 井伊家の下屋敷となり、明治時代にご料地となり神社が作られました。

およそ70万平方メートルの広大な鎮守の杜は、明治神宮創建にあたって全国から献木された約10万本を植栽し、「永遠の杜」を目指して造成された人工林です。今では人工的に作られた森とは思えない、自然な森林が形成されています。

毎年、初詣の参拝者数が日本一として有名です。



大鳥居(木造明神鳥居では日本一の大きさ)

第二回 帰命法会 ～関東大震災百回忌を機縁として～

12月11日(日)「第二回帰命法会」を西徳寺本堂にて勤修致しました。約100名の参詣者と共にお勤めさせていただいた後、真宗大谷派僧侶・大島義男先生から法話を頂戴しました。

その中で、「私たちは未来に対して願ったり祈ったりしているが、実は何の保証もされていない未来であるということ、99年前の関東大震災で亡くなっていかれた方々から教えられる」と仰いました。また、「保証のない未来を願うことで、『今』という『時』を見失い苦悩する私たちに、忘却された『今』という時を見出してくるのがお念仏なのだ」とも教えていただきました。

その後、境内にて「伊勢大神楽・山本源太夫社中」による総舞を奉納していただきました。2時間を超える大規模な総舞は関東では初めてではないかとの事です。

また午前中は、山本源太夫社中がお宅に伺いお参りする回壇が行われ、篠笛と太鼓の音に誘われた通りすがりの方々も、足を止め、珍しそうに眺めておられました。

お寒い中お参り下さいました皆様には、改めて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

次回「帰命法会」は、令和5年3月11日(土)午後1時より本堂にて法要を勤め、その後法話を大島義男先生より頂戴します。法要後には、境内にて岩手県一関市・行山流鹿子踊りの流れをくむ「東京鹿踊」と、阪神大震災後に西宮で復興された「えびすかき」による芸能奉納がございます。

次回も多くの皆様とご一緒に法要が勤められることを願っておりますので、お誘い合わせの上、是非ご参詣ください。

副住職 大橋伊知郎



大島義男先生

燈虹塾ハイブリッドセミナー

400年に及ぶ江戸吉原の文化を改めて調査し、理解し、保存し、愛で、普及することを目的とした当塾は、西徳寺に事務局を置き活動しています。

お寺の近くには五千円札の顔として有名な作家・樋口一葉が住んでいましたが、今回はその一葉を見出した大橋乙羽にスポットを当て、当塾理事を務めず近藤直子氏にお話を伺いました。

大橋乙羽は、現在でいう編集者。今ではよく聞く職業ですが、当時はまだ珍しかったようで、いわば大橋は編集者のパイオニアと言っても過言ではないそうです。その大橋と一葉の二人三脚があったからこそ、現在にも一葉の名が語り継がれていることを学ぶ時間となりました。

次回は1月18日(水)19時半より、日比谷孟俊塾頭より俳人・酒井抱一についてお話を伺う予定です。スマホさえあれば受講できますので、皆様のご参加をお待ちしております。(事務局 高橋 淳 記)



大橋乙羽について学びました



昔の文献も現在ではデジタル技術により簡単に読めるようになりました

芸能奉納



山本源太夫社中①



山本源太夫社中②



山本源太夫社中③



山本源太夫社中④



回壇風景①



回壇風景②



回壇風景③



皆様の代わりに、お花・お線香等、お墓にお供えできます。

うばだいしゃ ～共悩共歩～ テーマ「時代」

優婆提舎(うばだいしゃ)論議の意。
経説等について仏や仏弟子が論議して意味を明らかにしたもの。
(例:浄土論=無量寿経優婆提舎願生偈)

今回は、長年にわたり鑄物副資材販売し、現在は西徳寺城東ブロック会会長を務められます加藤廣さんにお話を伺いました。なお、仕事の傍ら趣味を活かして陶芸教室を始められ、教室は現在28年目を迎えています。

◇趣味の陶芸はいつ始められたのですか？

55歳のとき、仕事の合い間に始めたよ。(今、工房は)27年続けている。きっかけは…もともと物作りが好きだったんだね。工作とかよくしてたよ。

◇27年も続いていて素晴らしいです。ところでそれだけの時間を通して、昔と今で変わったことを教えてください。

お墓を大切にするようになったね。歳をとってきて(お墓にまつわる様々な)悩みが始まった。でも、ああ、祖先の血が入っているんだなど。それに気づいたのは病気で気づいた。

というのも、この歳になって、親父がかかった病気に自分もなったんだね。親父は胃潰瘍になったんだけど、私も胃潰瘍になって、妹も。遺伝子は親から子にいくでしょう、病気も遺伝するんだらうね。

だんだん歳をとってくると親に似てくるというけど病気も一つあるね。でも、先祖とつながっているという感覚を、歳を取ってから切実に感じるようになったよね。

◇そういう今の時代を、どういう時代だと思えますか？

一言でいってしまえば核家族の時代だね。だけど今年新年を迎えるわけで、そうしたら息子たち家族と妹家族とか我が家が集まるんだけど、会って話をするのが一番だね。一番大事なのは家族団らんだよ。

誰かから「人は一生に四〇〇人くらいしか会えない」という話を聞いたことがあるんだけど、だから会った人は大事にしなきゃならないよとも教えられた。そういう時代にしていききたいね。

(聞き手 高橋淳)



加藤 廣さん



教室の中を紹介していただきました



坊さんのツブヤッター

@マーチン



いつの間にか身に付いている当たり前を、言葉にして説明するのは難しい
漢字の書き順や、1+1が2であること
「なぜ自分が生まれてきたのか、なぜ死ななければいけないのか」
それが問いになって、宗教というものが生まれてきたのだろう
答えなんて出ないし、分かるはずがない
そもそも“分かるいのち”を生きていないから



漢字の書き順に苦戦する長女

「二代墓地」、各種墓地、受付中。墓石への法名刻みはお問い合わせください。



通夜布教

内愚外賢

～賢者の信を聞きて、愚禿が心を顕す～

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

私事ではありますが、昨年1月24日から28日まで、本山佛光寺で毎年勤まる^{としようきほうおんこう}御正忌報恩講(親鸞聖人祥月命日の法要)に式務衆として出仕してまいりました。新型コロナウイルスの影響もあり、3年ぶりの出仕となりました。

今回は更に、27日の深夜にある通夜布教の法話を命ぜられ、深夜1時過ぎに本山の大師堂で法話をいたしました。緊張もあり、あまり上手くはお話できませんでしたが、親鸞聖人から賜った課題、南無阿弥陀仏というお念仏についてお話させていただきました。

今年は本山佛光寺で慶讃法会が勤まります。皆様とお参りできることを楽しみにしております。

(編集長 仲井 真裕 記)

えこおに対するご意見・ご感想、お待ちしております。

✉ saitokuji@ce.wakwak.com
 🌐 <http://saitokuji.tobihiro.jp/>



ホームページ

ゆうちょ銀行お振り込み口座
00120-0-80670 名義 西徳寺



Facebook